

医療者と宗教者の協働による緩和医療のための医学教育実践の研究

その他（別言語等）の研究課題名	Practical study on palliative medicine education through teachers for medicine-Religionist Collaboration
研究代表者	馬場 忠雄, 早島 理, 佐藤 浩, 丸尾 良浩, 長倉 伯博
発行年	2011-03
URL	http://hdl.handle.net/10422/6346

平成 21 年度～23 年度 科学研究費補助金

研 究 成 果 報 告 書

基盤研究 (C) 課題番号 21590561

研究課題名

医療者と宗教者の協働による緩和医療のための 医学教育実践の研究

平成 23 年 3 月

研究代表者 馬場 忠雄
滋賀医科大学 学長

本研究の目的は、難治性の重篤な患者、末期状態の患者などを支える緩和医療のより望ましいあり方を構築するため、医学・医療を学ぶ者と宗教者が医学教育の場で共に学ぶことを通じて、両者が実践的に協働できるシステムを研究し、医学教育のカリキュラムに提供することである。

周知のように、WHO（世界保健機構）は1990年の提言（2002年に追加）で、患者さん（特に緩和医療の）が抱える苦痛苦悩として、従来の3項目すなわち1. 身体的苦痛、2. 精神的苦悩、3. 社会的苦しみと並んで、新たに第4の苦痛・苦悩「spiritual pain」（仮訳「根源的苦悩」）を追加したことは記憶に新しい。人間として生きていくことへの根源的な懷疑から生ずる苦しみである。本研究では、医療者と宗教者が協働してこの第4の「根源的苦悩」からの解放、あるいは患者さんと一緒にこの苦悩を担う道筋を探り、その方策を医学教育の場に還元しようと試みた。

本研究を実施する中で種々に討議を重ね、

1. 必要に応じて医療チームに宗教者がいても当然という、医療者側の意識改革
 2. 医療チームの一員として活躍できる力量を備えた宗教者の育成
- の重要性を確認した。

この第1の課題を追求するために、本学のカリキュラムで

a) 「医療者と宗教者とが同一の講義を共同で学ぶ緩和医療」の講義を開講した。具体的には、「医の倫理 III」（医学科4回生）、「宗教学」（看護学科4回生）、「看護倫理」（看護学科大学院生）を合同で開講し、ここに全国からこの研究課題に同意する宗教者等が参加するというユニークな試みである。この講義は分担研究者長倉と早島が中心になり、他の研究員の協力をえて実施している。この研究内容は掲載論文1に詳しい。

b) この緩和医療教育は医学教育の早期段階から導入する必要があると考え、本年2011年度から「医学概論」（医学科1回生）と「看護学原論」（看護学科同）を共同講義で実施し、その講義にこの緩和医療をテーマとする授業を、研究代表者馬場が中心となり分担研究者長倉、早島がサポートして実施した。また両学科1回生数名が早期体験実習として緩和医療病棟（「本願寺あそかビハーラクリニック」（京都府城陽市奈島下ノ畦 14））で実習を行い、分担研究者長倉が実践指導をした。



また第2の課題を考えるために、全国各地で講演会・研修会を開催し、医療者と宗教者の意識改革を試みた。この研究活動の報告が掲載論文2、5、6である。

さらにこの科学研究期間内に滋賀医科大学で第28回日本医学哲学医学倫理学会学術大会を開催した(2009, 10, 31-11, 1)。大会長は分担研究者早島、この科研のメンバー全員のサポートで成功裏に終えることができた。この研究活動は掲載論文4、7を参照されたい。

研究組織

研究代表者： 馬場 忠雄 (滋賀医科大学 学長)
研究分担者： 早島 理 (滋賀医科大学・医学部・教授)
佐藤 浩 (滋賀医科大学・医学部・教授)
丸尾 良浩 (滋賀医科大学・医学部・講師)
長倉 伯博 (滋賀医科大学・医学部・非常勤講師)
横尾 美智代 (活水女子大学・健康生活学部・准教授)

交付決定額

研究費	直接経費	間接経費	合計
平成 21 (2009) 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
平成 22 (2010) 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
平成 23 (2011) 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

掲載論文

本研究費に基づく成果のうち、主な論文と学術大会記録を以下に掲載する。

1. 早島理、横尾美智代

「ビハーラ活動者の現状と展望

—本願寺ビハーラ活動者養成研修会のアンケート調査をもとに—

浄土真宗総合研究 6号 (1-41) 2011, 3

2. 早島理

「改正脳死・臓器移植法と生老病死」

行信学報 通刊第24号 (復刊第19号) (1-36) 2011, 5

3. Yokoo, M., et al.

Rotavirus disease burden and molecular epidemiology in children with acute diarrhea age less than 5 years in Nepal

Journal of the Nepal Paediatric Society, 31-3, (209-215) 2011

4. 横尾美智代・早島理

「医学科学生の生命倫理に対する考え方の変化

—質問紙調査および記述表現から学年進行の影響を探る試み—

医学哲学医学倫理 28号 (83-92) 2010, 10

5. 長倉伯博 (縦書)

「ターミナルケアと死生観」

真実心 31 (41-90) 2010, 3

6. 長倉伯博 (縦書)

「生きるということ」

真実心 32 (53-104) 2011, 3

7. 第28回日本医学哲学医学倫理学会大会 記録 (大会パンフレット)

日時：2009, 10, 31-11, 1 会場：滋賀医科大学